

【6学年】アウトライン作成

【題材テーマ】加西市の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらおう

プレ 教科学習		STEAM単元【●時間計画】 ★【ユーザー設定(誰の・どんな課題を解決するか)】を、どこで設定するか考えて記入する。		関連・協力する人材・施設等
		1. 探求し、知る学び	2. 発想し、創る学び	
【科学・数学】教科 ・算数科「資料の調べ方」 ・算数科「表を使って考えよう(1)(2)」	① 問題発見 課題設定	・昨年度の6年生の平和学習での取り組みから課題を知る。 →Sora加西には観光に来るが、そこから他の加西市の施設に行く人が少ない。 →加西市の魅力をもっと知ってほしい。	⑤ 共感	【連携する地域資源】 ・Sora加西 ・フラワーセンター ・梶野飛行場
【芸術】教科 ・国語科「情報と情報をつなげて伝えるとき」 ・国語科「人をひきつける表現」	② 情報収集	・加西市にはどのような魅力があるのだろうか。 →加西市の施設について調べ学習をする。	⑥ 問題定義	
【技術・工学】教科 ・プログラミング(クープ)(スクラッチ) ・ロイロノートの活用	③ 整理・分析	・調べた施設について、他にはない紹介したい魅力を整理する。	⑦ 発想	【サポーター】 ・Sora加西の施設の方
	④ まとめ 表現	・整理したものを、Googleスライドを活用し、紹介する。	⑧ プロトタイプ (試作品)	【アウトプットの想定、期待する児童の姿】
			⑨ テスト	

【6】年1学期 単元名 (題材・テーマ)		加西市の施設の魅力を調べよう										
児童の実態	長所	○最後まで粘り強く取り組もうとする。 ○友達と一緒に協力して活動に取り組むことができる。										
	課題	▲受け身で、主体的に学習に取り組む意識が低い。 ▲決められたことや調べ活動には意欲的だが、そこから創造的に学習を広げていく意識が低い。										
目標	アウトプットの想定 期待する児童の姿	加西市や市の施設の抱える課題について調べ、加西市の施設の魅力について知り、それをまとめ、友達に伝えることができる。										
	知識・技能	加西市の施設の魅力がわかる。 スライドを使って、調べた魅力を発表することができる。										
	思考・判断・表現	他の施設と比べて、加西市の施設の魅力についてまとめることができる。										
	学びに向かう態度	施設の魅力について、主体的に考え、友達に伝えようとしている。 調べた魅力を意欲的に友達につたえようとしている。										
学習活動 計画	① 問題発見 課題設定	1	・昨年度の6年生の平和学習での取り組みから、課題を知る。 →Sora加西には観光に来るが、そこから他の加西市の施設に行く人が少ない。 →加西市の魅力をもっと知ってほしい。 ○昨年度の課題を引き継ぎ、学習計画を立てることで児童にとって身近なものとして課題設定ができた。				・soraかさい					
	② 情報収集	3	・加西市にはどのような魅力があるのだろうか。 →加西市の施設について調べ学習をする。 ▲情報収集の観点を明確にしておかないと、施設についてただ調べ学習をしているだけになってしまう。				・既習事項と関連させ、市の施設について出し合い、魅力についてのイメージを持つことができるようにする。 ▲主にインターネットやパンフレット、市の広報誌を利用して調べ学習を行った。情報はそれなりにあったが、自分が直接見たり感じたりしたことを入れられるとさらに良かった。			【算数】 「資料の調べ方」		
	③ 整理・分析	4	・調べた施設について、他にはない紹介したい魅力を Googleスライドで整理する。 ○自分たちの調べた中で特に紹介したいことを入れることで、聞き手にも魅力が伝わりやすいように構成を工夫する姿が見られた。				・調べた情報をただ載せるだけではなく、情報と情報をどの順序で、また、どんな言葉を使ってどのようにつなげて伝えると分かりやすいかを考えさせるようにする。 ・ICT支援員 ○ICT支援員さんから情報をまとめるポイントを教えもらったことで、スライドにまとめる際に、伝えたいことは1つのページに対して1つのメッセージにとどめるとよいことや、適切な文字の大きさなどについて知り、他者に伝わりやすい資料の作り方が上達した。			【国語】 情報と情報をつなげて伝えるとき		
	④ まとめ ・表現	2	・整理したものを、Googleスライドを活用し、紹介し合う。 ○他のグループの発表を聞くことで、加西市の特産物や歴史的な建造物などについて知識を広げられた。 ○魅力を再発見したことで、更に現地に行き行って調べてみたいという意欲を持つ児童がいた。							【国語】 「聞いて考えを深めよう」 【道徳】 「未来に残そう私たちの浄土寺」 【国語】 「私たちにできること」		
【教科】 単元名	【国語】 「聞いて考えを深めよう」	【国語】 情報と情報をつなげて伝えるとき	【国語】 私たちにできること	【社会】 子育て支援の願いを実現する政治	【社会】 子育て支援の願いを実現する政治	【算数】 「資料の調べ方」	【道徳】 「未来に残そう私たちの浄土寺」	【】	【】	【】	【】	【】
身につける 力 【知・技】 【思・表】	【思・表】 話し手の目的や、自分がきこうとする意図に応じて、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。	【知・技】 情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使用することができる。 【思・表】 目的や意図に応じて、材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。	【思・表】 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。	【知・技】 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。	【思・表】 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。	【思・表】 身の回りの事象から問題を設定し、統計的な手法を用いて解決する。	【ねらい】 人々の心の支えとなるふるさとや郷土のよさに気づき、すすんで郷土を愛する気持ちを育てる。					

【6】年2学期 単元名 (題材・テーマ)		加西市を活性化させよう！							
児童の実態	長所	○学習活動に意欲的に取り組もうとする。 ○既習事項や生活経験から市の様子について色々な知識を持っている。							
	課題	▲受け身で、主体的に学習に取り組む意識が低い。 ▲決められたことや調べ活動には意欲的だが、そこから創造的に学習を広げていく意識がまだ低い。							
目標	アウトプットの想定期待する児童の姿	加西市の魅力について調べたことに加え、現地の人や市の職員の方の願いを聞き、市の施設の魅力をPRするパンフレットを作ることができる。							
	知識・技能	加西市の魅力について調べたことと願いをPRするパンフレットを作成することができる。							
	思考・判断・表現	市の施設の方や市の職員の方の願いを聞き、今まで調べてきた学習との関連を見つけることができる。							
	学びに向かう態度	調べたことや体験したことをもとに、伝えたい魅力を明確にし、主体的に学習に取り組む。							
学習活動計画		時数 【全30時間】	学習活動	指導の手立て・留意事項 連携する地域資源・サポーター	関連教科・単元				
	★ ユーザー設定	1～10	・Soraかさいを訪れ、加西市やSoraかさいの観光面の現状や市の観光に携わる方々の願いについて聞く。 ・加西市に来た観光客の方々に、色々な施設を回ってもらい、加西市の魅力をもっと知ってほしいという意欲を高める。 ・soraかさいを見学し、既に取り組まれている観光の工夫を見つけ、願いを実現するための材料を得る。 ・聞き取った願いや見つけた工夫について分かったことをまとめ、観光に携わる方々へ報告する。 ・修学旅行で、京都・奈良の観光の工夫を見つける。 ○市の職員の方から直接話を聞くことで、意欲的に課題設定を行うことができた。 ○実際の声を聞き、質疑応答をすることで、困り感についての具体的なイメージを市の職員と児童との間で共有することができた。 ○修学旅行先での調べ活動には意欲的であった。 △多くの目的があったため、児童自身のポイントを見ているのか混乱することがあった。	・soraかさい ・加西市観光協会 ・加西市役所鶴野未来課 ・連携する施設の方と、学習させたいことと協力していただけて内容を共有しておく。 ・1学期の学習を想起させる。 △事前に見るべきポイントを押さえてから見学を行わないと、児童は初めての学習になるので、視点が分からず困惑しているときがあった。	【社会】 長く続いた戦争と人々の暮らし 【社会】 新しい日本、平和な日本 △単元が間に合わず、教科横断的に学習を進めることが難しかった。				
	⑤ 共感								
	⑥ 問題定義	11～15	・修学旅行で見つけた京都・奈良の観光の工夫を全体で共有する。 ・解決する願いを各班1つに絞り、加西市の工夫と京都・奈良の工夫について比較しながら整理する。 △班の話し合いの際に、ホワイトボード(手書き)を使うかロイノット等(chromebook上)を使うか、それぞれメリット・デメリットがあり迷った。見つけたことの共有はホワイトボード(手書き)で、発想の段階からはロイノットで行った。	・観光客の現状についても調査することで、問題の解決へのヒントとなるようにする。 ・sora加西 ・加西市観光協会 ・加西市役所観光課 △近未来的な事でも案を出していくことが大切ということであったが、児童の中で実現できそうなところで収まる意見が多かった。(教師側の指導の仕方に課題があったため)	【道徳】 杉原千蔵 一大勢の命を守った外交官 【道徳】 天下の名城をよみがえらせる一姫路城				
	⑦ 発想	16～30	・自分たちで調べた魅力を、沢山のの人に紹介して、様々な観光地に行ってもらえる方法を考える。 ・観光の工夫について取り組むことができそうな案を出し、市の観光に携わる方々に提案(中間発表)する。 (市の観光に携わる方々に、集客数を高めるアイデアについて紹介するプレゼンをする。) ・市の観光に携わる方々から意見をもらい、案についてさらに具体的に提案(試作)することを決めていく。 ○様々な市の取り組みを参考に加西市に取り入れることができそうなものについて、積極的に意見交換する姿が見られた。 △グループの人数が少なかつたため、意見があまり出てこない班も見られた。 ○市の観光に携わる方々を目の前にして自分達のアイデアを伝え直接感想を聞くことで、学習を通して地域に関わることができている有用感のようなものを感じたり、また、仕事として地域を活性化させることの難しさや大切さに気付いたりすることができた。	・様々な地域の取り組みについても調べることで、加西市に活用できそうなものを見つけることができるようにする。 ・sora加西 ・加西市観光協会 ・加西市役所観光課 △すでに加西市で行われている取り組みについても提案が複数見られた。事前学習として児童にもっと加西市の取り組みや普段の町の様子について調べさせる必要があった。 △マスコットキャラクターを作るという意見があったが、すでに加西市には存在しているので、目的や意図をしっかりと追求し、実現可能な提案にする必要を感じた。 △自分達の考えを相手により分かりやすく伝えるという面において、10班分の指導になかなか手が回らなかった。授業後に気付きをメモし、次時のスタート時に各班へ伝える方法は効果的だったが、授業中の班の話し合い時に全班に十分に寄り添い助言を行うことが難しかった。					
	⑧ プロトタイプ (試作品)	8・9・10	・魅力を紹介するパンフレットや動画を作って、観光施設に掲示させてもらう。	・観光施設に試作品を置かせてもらい、観光客の方々に加西市の観光の際に手に取ってもらえるようにする。	【国語】日本文化を発信しよう 【国語】調べた情報の用い方				
	⑨ テスト	11・12・13	・観光施設に掲示させてもらった試作品をもとに、観光客の方々が他の施設に行く姿が増えたか、施設の方々にインタビューする。						
【教科】 単元名	【国語】 日本文化を発信しよう	【国語】 調べた情報の用い方	【社会】 長く続いた戦争と人々の暮らし	【社会】 新しい日本、平和な日本	【道徳】 杉原千蔵 一大勢の命を守った外交官	【道徳】 天下の名城をよみがえらせる一姫路城			
身につける力 【知・技】 【思・表】	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。【思・表】	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮すること。【思・表】	・世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、地図の年表などの資料で調べたり聞いたりして、我が国に関わる第二次世界大戦について理解している。【知・技】	・我が国が国際社会において果たしてきた役割を考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。【思・表】	・誰に対しても公正公平な態度で接し、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。	先人の知恵のすばらしさを理解し、郷土や我が国の伝統文化を受け継ぎ、後世に残すために大切にしようとする心情を育てる。			

【6】年2学期 単元名 (題材・テーマ)		加西市PR隊 ★校外打ち合わせ資料									
児童の実態	アウトプットの想定 期待する児童の姿	加西市の魅力について調べたことに加え、加西市の観光に携わる方々の思いや願いを聞き、加西市の魅力PRする方法を考えプレゼンすることができる。									
目標	知識・技能	加西市がもっている魅力や、加西市の観光に携わる方々の思いや願いを理解することができる。									
	思考・判断・表現	加西市の観光に携わる方々の思いや願いを聞き取り、今まで調べてきた学習との関連を見つけることができる。調べたことや聞き取ったことをもとに、加西市の魅力PRする方法を考え、プレゼンすることができる。									
	学びに向かう態度	調べたことや体験したことをもとに、伝えたい魅力を明確にし、主体的に学習に取り組む。									
		時数 【全13時間】	学習活動	指導の手立て・留意事項 ・連携する地域資源・サポーター	関連教科・単元						
学習活動 計画	★ ⑤ 共感	1・2	・校区内の観光施設である sora かいを訪れ、鶴野飛行場や防空壕などが使われていた当時の様子を知り、戦争や平和についての理解を深める。また、それらを多くの人々に伝えていくための施設としての魅力・取り組みを知る。 ・加西市にきた観光客の方々に、色々な施設を訪れてもらったことについて調べる。	・sora かい ・加西市観光協会 ・加西市役所鶴野未来課 ・連携する施設の方と、学習させたいことと協力していただく。	【社会】 長く続いた戦争と人々の暮らし 【社会】 新しい日本、平和な日本						
	⑥ 問題定義	3・4	・加西市の魅力を市県外の人々に知ってもらうためにはどうすればよいか考える。	・観光客の現状についても調査することで、問題の解決へのヒントとなるようにする。 ・sora 加西 ・加西市観光協会 ・加西市役所鶴野未来課	【道徳】 杉原千畝 一大勢の命を守った外交官― 【道徳】						
	⑦ 発想	5・6・7	・加西市の観光地と修学旅行先の観光地について比較し、集客数を高める取り組みについて調べる。 ・加西市の魅力をたくさんの人に紹介して、様々な観光地を訪れてもらえる方法を考える。 →市の観光協会の方や鶴野未来課の方に、集客数を高めるアイデアについて紹介するプレゼンをしよう。 (例)PR動画・ポスター・パンフレット・看板等の作成、PRの発信方法の工夫、設置場所の工夫	・デザイン制作会社の方からパンフレットや動画作りについて教えていただくことで、受け手に伝わりやすい資料の作り方や、効果的な情報発信の仕方を学ぶ。 ・「1つの観光地だけでなく色々な観光地に行ってほしい」という願いを解決するためにどのような PR方法があるか話し合う。 ・修学旅行で見つけた工夫を想起させ、加西市にどのように取り入れられるかを考えさせる。							
	⑧ プロトタイプ (試作品)	8・9・10	集客数を高めるアイデアについて紹介するプレゼン資料を作成する。	・1学期に学習した、分かりやすく伝えるためのスライド資料作りを想起させ、プレゼンに生かせるようにする。	【国語】日本文化を発信しよう 【国語】調べた情報の使い方						
	⑨ テスト	11・12・13	加西市の観光に携わる方々へ、集客数を高めるアイデアについてプレゼンを行う。	・加西市観光協会 ・加西市役所鶴野未来課							
【国語】 日本文化を発信しよう	【国語】 調べた情報の使い方	【社会】 長く続いた戦争と人々の暮らし	【社会】 新しい日本、平和な日本	【道徳】 杉原千畝 一大勢の命を守った外交官―	【道徳】 天下の名城をよみがえらせる一姫路城―						
・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。【思・表】	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。【思・表】	・世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、地図の年表などの資料で調べたり聞いたりして、我が国に関わる第二次世界大戦について理解して表現している。【思・表】	・我が国が国際社会において果たしてきた役割を考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。【思・表】	・誰に対しても公正公平な態度で接し、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。	先人の知恵のすばらしさを理解し、郷土や我が国の伝統文化を受け継ぎ、後世に残すために大切にしようとする心情を育てる。						
【教科】 単元名											
身につける力 【知・技】 【思・表】											

【6】年3学期 単元名 (題材・テーマ)		加西市を活性化させよう！							
児童の実態	長所	○学習活動に意欲的に取り組もうとする。 ○既習事項や生活経験から市の様子について色々な知識を持っている。							
	課題	▲受け身で、主体的に学習に取り組む意識が低い。 ▲決められたことや調べ活動には意欲的だが、そこから創造的に学習を広げていく意識がまだ低い。							
目標	アウトプットの想定 期待する児童の姿	加西市の魅力について調べたことに加え、現地の人や市の職員の方の願いを聞き、市の施設の魅力をPRするパンフレットを作ることができる。							
	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	学びに向かう態度								
学習活動計画		時数 【全・時間】	学習活動				・指導の手立て・留意事項 ・連携する地域資源・サポーター		関連教科・単元
	★ ユーザー設定								
	⑤ 共感								
	⑥ 問題定義								
	⑦ 発想								
	⑧ プロトタイプ (試作品)	31～38	・願いを実現するための試作品を作る。				・中間発表でもらったアドバイスや意見をもとに、いくつかの提案の中から試作するものを1つに絞る。 ・実物の試作品に加えて、スクラッチやQRコード、動画等、ICTを活用した方法があることを助言し、これまでの学習内容を生かせるようにする。 ・試作品をより良くするために、アドバイスをし合い修正や改善をしていく。 △班によっては、試作品の内容が工作のようなものになってしまうものがあつた。 ○学年全体でも1とつのことを提案することで、役割分担しながら作業に取り組むことができた。		【国語】日本文化を発信しよう 【国語】調べた情報の使い方
⑨ テスト	39～42	・観光協会や観光課の方々へ試作品を発表し、評価してもらおう。 ・評価の結果を受け止め、学習全体を通して良かったところや今後の課題を考える。				・観光協会や観光課の方々に学習の意図やねらいを伝え、共有しておく。 △他の学習との兼ね合いもあり、発表練習の時間が十分に取れなかった。		【国語】日本文化を発信しよう	
【教科】 単元名									
身につける 力 【知・技】 【思・表】									